

1. 目的	安芸市都市計画マスタープラン（「全体構想」「地域別構想」）について、各地域のみなさんに広く周知するとともに、ご意見をいただくため、市民説明会を開催
2. 実施日時・場所	11月12日（火） ●昼の部：1回目 午後2：00から 安芸市防災センター ●夜の部：2回目 午後7：00から 安芸市防災センター
3. 対象者	市民の皆様（通勤・通学者含む）
4. 公表した資料	【概要版】安芸市都市計画マスタープラン 【全体版】安芸市都市計画マスタープラン
5. 参加者数	20名

○都市マスに関連する主な意見

関連項目	頁	意見（趣旨）	市の回答
4. 全体構想 4.3 安芸市の新たな都市計画の方針 4.3.1 都市計画区域見直しの検討	4-16	<p>国道55号周辺は自然と寂れていくのではないのでしょうか。</p> <p>新市役所とインターチェンジとが複合した、新しいまちづくりを考えていった方がいいのではないのでしょうか。</p>	<p>旧安芸町が都市計画区域であり、これは久しく変わっていません。新市役所等ができることにより（県道）安芸中インター線沿いの農地が事業所や店舗等に変わっていくことも考えられ、都市計画区域の見直しの検討をする必要性も出てくると思われます。</p> <p>都市計画マスタープランは市の総合計画や高知県の高知東部圏域都市計画区域マスタープランに則ったものですが、総合計画も5年おきに見直しされます。様々な変化を踏まえ、どれを優先的に進めるのかを選択しつつ、財政状況を考慮しながら安芸市らしい都市計画、まちづくりを進めていくべきだと考えています。</p>

<p>4. 全体構想 4.3 安芸市の新たな都市計画の方針 4.3.1 都市計画区域見直しの検討</p>	<p>4-16</p>	<p>新市役所やインターチェンジ周辺で新しいまちが作られていくようになると思います。 現行市役所周辺がすたれるから市役所の移転を反対されている方もいますが、移転するのであれば新しいまちづくりに目を向け、農地法で田んぼが転用できないといった足かせがないようにするべきだと思います。</p>	<p>安易に農地転用するのではなく、無秩序な建築や、農地の使い勝手が悪くなるということにならないようにすることとします。</p>
<p>4. 全体構想 4.3 安芸市の新たな都市計画の方針 4.3.3 災害に強い都市防災</p>	<p>4-22</p>	<p>安芸市は16mの津波が来ることを想定していますが、商業地区と住居地区との住み分けをすることを検討されたことはありますか。 例えば、商業地区は現在の中心市街地、道路を整備し津波が来たら高台に逃げ、住居は高台にというような議論はされましたでしょうか。</p>	<p>津波浸水想定区域においては、L2津波という千年に一度の確率で来る津波に対して2m以上つかるところを予想されています。 こういう状態に対し、安芸市としてどうしたらいいかについて学識経験者、公共的団体等の役職員、市職員で構成する「安芸市都市計画マスタープラン策定委員会」で議論いただきました。（関連意見：09参照） 1つ目のパターンとして、黒潮町で計画されている集団移転というやり方があります。非常に規模の小さい町ですので、住居だけを移転させることはできるかもしれませんが、それを安芸市でもできるか議論されました。 次の2つ目のパターンとして、津波浸水の確立がもっと高い所（L1津波）、ここだけ移転するなり、何か違う措置を取るという方法もありました。須崎市がそのようなやり方で計画しています。 3つめのパターンとして、高知市のように、</p>

			<p>現在の場で対策を進める方法を議論しています。</p> <p>安芸市は、市街地に多くの住宅や商店街があり、そこで仕事や生活をしています。これを全て移転することは、現段階において確定することはできないため、今後とも継続的に議論を進めることとしています。</p> <p>この都市計画マスタープランでは、ここで暮らし、新しい人にも来てもらうための取り組みについて、これからも継続的に検討することにしていただいています。</p>
--	--	--	--